クモを襲うクモ

中平　清（高知市一宮）

クモを食うクモはたくさんいる．ちよつと思い出すままに並べても次の通りである．さきに書いてあるのが加害者（　）に入ってあるのが被害者である．オオヒメグモ（チヤスジハエトリ）．ヤマトコノハヒメグモ（トホシヒメグモ，セスジアカムネグモ）．ハラナガヘラヒメグモ（アオオニグモ）．アシブトハエトリ（ウズキコモリグモ，デーニッツハエトリ）．チャスジハエトリ（ナミハエトリ，チャスジハエトリ）．アシダカグモ（アシダカグモ）．ハシリグモ（ハシリグモ）．スジアカハシリグモ（ユオウイロハシリグモ，スジアカハシリグモ）．セスジコモリグモ（キクズキコモリグモ）．クサグモ（カラスハエトリ）．ササグモ（チュウガタシロカネグモ）．ハナグモ（ワキグロサツマノミダマシ）．ワカバグモ（ウロコアシナガグモ，ワカバグモ）．など………．
これだけある．

しかし，これらのクモは，クモのみを食うのではなく，食餌動物の一つとして，たまたまクモを捕えたまでのことで，偶然の機会がそうさせたのである．機会さえあれば，全てのクモが同属同種相食むのである．

このようなクモは，造網性のものよりも徘徊性のクモに於て多く観察されるのは，その習性上，他蛛と遭遇する機会が多いからである．

だが，多くのクモの中には，偶然ではなくて，積極的に「自己の唯一の食餌として，他蛛を求めて襲撃する.」クモがいる．標題のクモは，そういう意味のクモである．

クモを襲うクモとして，筆者はツノセンショウグモ *Ero japonica* B. et S. サガヤリグモ *Rhomphaea Sagana* (D. et S.) の２種を観察している．

ツノセンショウグモ *Ero japonica* Boes. et Str.

斎藤氏（日本動物図鑑，北隆館，1951）によると，このクモは，「草原，灌木地帯に貧弱な不規則網を作る.」そうであるが，筆者はまだこの様な個体を観察していない．

観察したものは，他蛛の網に居候グモの様な形でとまつているものか，網主を襲い，それを捕えて食つているものかの何れかであつた．

1949年から今日までの間に，確認した被害者は次の通りである．

ヒメグモ（１例），コンピラヒメグモ（１例），オオヒメグモ（２例），スジアカハシリグモ（１例）

※卵のうから出た仔グモが一団をなして群居している中に入り込んで片端から捕食，仔グモは少しも逃げようともせず，次次に食われていた．

ジョロウグモ（３例），コガネグモ（１例），チュウガタシロカネグモ（１例），シマゴミグモ（１例），ヨツデゴミグモ（１例），チリイソウロウグモ（１例）

※クサグモの網に居候していたもの．

オオウズグモ（１例）　※捕食中，後から侵入して来た♂と交合した．

クモは非常に排他的な動物であり，他蛛が自分の網に一歩でも足をかければ，すぐ追出してしまう程のものであるが，ツノセンショウグモに対する態度は，イソウロウグモに対する態度と同様で，まことに寛大であるというほかない．じつとして，敵の殺りくを待つているのである．

最後に挙げたオオウズグモの場合を見ると，網の一端に侵入したツノセンショウグモは2時間程じつとしていた後，網糸を伝つて，じりじりとウズグモに近づき，面と面とが向きあつてもウズグモはじつとしている．やがて，センショウグモが，ゆつくりと一本の第1歩脚を伸してウズグモの頭胸部にかける．この時，ウズグモは驚いて体を反転して逃げようとした，が，パッと，とびかかり，アッという間に嚙み伏せてしまつた．そして，網の中心で食事をしながら，後から侵入して来た♂と交合した．

センショウグモも飼育すれば，小型の昆虫も食うが，自然状態では，その様な観察例はなく，全てが上記の様に，もつぱら造網性のクモ，それも己れの体につり合つた小型のクモか，幼蛛，仔グモのみを襲つている．

宿主のいない網に静止している個体もよくみられるが，これは網主を捕食した後の休息であるとみて，まずまちがいないと思う．

サガヤリグモ *Rhomphaea sagana* (DOEN. et STR.)

このクモは，綾糸状の網を作ることもあるが，多くの個体が他蛛の網にいる．

他蛛の網にいる時の動作はイソウロウグモのそれと全く同じであり，宿主の，これに対する態度も，イソウロウグモに対する態度と同様である．他蛛の網にいるサガヤリグモは，イソウロウグモの様に食物の残りを頂戴するのが目的ではなく，センショウグモ同様，宿主そのものを自己の食物としてねらつているのだ．実にねばり強く，何時間でも，1日でも2日でも機会をねらつている．センショウグモの何倍も忍耐強くねばつている．センショウグモの場合は，その気になつて少しがんばれば，襲撃の様子を観察することができるが，ヤリグモの場合はとても辛ぼうできない程ゆつくりかまえている．それだけに，イソウロウグモ的な習性が身についている．

筆者はまだ襲撃場面を観察したことはないが，確認した被害者は次の通りである．

コガネグモ幼体(1例)，ヨツデゴミグモ(1例)，オオヒメグモ幼体(1例)，ヒメグモ(1例)，イエユウレイグモ幼体(1例)，オオウズグモ(2例)，アシナガサラグモ(2例)

その他，クサグモの網に侵入していたもの数例があるが，これは，クサグモが目的ではなく，この網を好んで居候するチリイソウロウグモやアカイソウロウグモ，クラカケイソウロウグモなどが目的であつただろうが，捕食を確認していない．

このクモの食性も，センショウグモ同様に注意して観察しているつもりではあるが，まだ自分の張つた網で狩をしている個体はもちろん．昆虫など，クモ以外のものを食つている個体を見たことがない．

「見たことがない．」ということは，「食わない．」というきめ手にはならないが，サガヤリグモも，造網性のクモを求めて渉り歩いているクモであると確信している．